

導入事例
てれたっち

達成感が違う!「てれたっち」を使った掛け算のタイムトライアル。 クラス全員のやる気を引き出し、学力向上を後押し!



長野県の上田市立丸子北小学校では、ゲームやPA(プロジェクト・アドベンチャー)の考え方を取り入れた先進的な授業を「てれたっち」で実践し、高い学習効果を実感されているとのこと。同校の武田敦子先生と青島勉先生、また、上田市教育委員会学校教育課でICT導入による授業改善を推進される小池心吾指導主事にお話を伺いました。
※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。



導入商品

外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」
DA-TOUCH / WB

※ディスプレイは別売りです。

目に見える学習効果。すんなり課題をこなす児童の姿に驚きも

「てれたっち」導入の経緯、学習効果についてお聞かせください。

青島先生: 情報教育の研修会の場で知って、「これなら使えそうだ」と思ったことが導入のきっかけです。シンプルな装置で、既存のディスプレイに外付けできる点にも感心しました。しかも、ディスプレイ上で簡単に操作できるとあって、児童主体の活用もできると思いました。

武田先生: 授業は「できるだけわかりやすく」を心がけており、そのために使えるツールならばどんどん取り入れたいと思っています。画面に書き込みできる「てれたっち」は、児童の意欲を大きく高めるツールですね。例えば漢字の書き順だったら、タッチペンを児童に渡して実際に画面上に書かせています。書いている本人はもちろんですが、友達の書き順を側で見る行為にも当事者感があるようで、記憶への定着が非常によくなると感じます。「てれたっち」を使うと、時間をかけて繰り返し書かせなくても、短時間で頭に入っていくと実感できます。



タッチペンで書き込み



掛け算のタイムトライアル

「てれたっち」を使ったタイムトライアルで高い学習効果

算数では、掛け算のタイムトライアルをよく行われているそうですね。

武田先生: パワーポイントで作成した問題集を児童全員が順番に解いていくというシンプルなものですが、非常に効果的です。スライド1枚に1問の問題があり、児童が1列に並び順に回答していきます。正解だったらタッチペンで画面をクリックして次のシートを開き、タッチペンを次の児童に手渡します。これを全員で繰り返し、そのタイムを競うものです。児童が自分でタッチペンを持ち画面を押すことで、「参加した」「やり遂げた」という達成感を持つことができます。これは米国で提唱された教育法[PA]の考えに則った、体感重視の教育をベースに考えたものです。「個を活かせば全体が活きる」、つまり「1人のがんばりがみんなのがんばりになる」という状況を用意して、クラス全員で取り組めます。「みんな」でやることで「個」のつまずきが小さいものになり、消極的な児童も安心して参加できるようになりました。

「苦手のある子」の学びを、「てれたっち」が的確にサポート

「てれたっち」は、様々な「苦手」を抱える児童のサポートにも役立つと伺いました。

武田先生: 学校には多様な児童がいますが、中には視覚優位、聴覚優位といった個性を持つ子どももいます。特に視覚優位の児童に対しては、電子黒板を使った授業が合うようですね。また、空間認知の苦手な児童も、大きな画面でタッチペンを使うとわかりやすいようです。誰もが黒板さえあればなんでも簡単に理解できるわけではありません。多様なツールがあることで、多様な個性の児童1人ひとりに優しい授業が実現します。もちろん、こうした授業は「できる子」にとっても非常にわかりやすいものですから、全体のメリットになります。「てれたっち」による視覚的な支援で、漢字の成績が大幅に向上した児童もいて、平均点の底上げにつながっています。

文部科学省の統計で、学校におけるICTの整備状況や教員の指導力などが公開されましたが、上田市はすべての数値で県平均を上回られていましたね。

小池指導主事: 力を入れた結果が反映されたと感じています。先駆者としてICTを活用されている先生方には、引き続き取り組みを進めて欲しいです。一方で、新しいツールの利用に対して、「失敗が怖い」「自信がない」と感じる教員中にもいます。「てれたっち」のように誰でも簡単に使えるツールが、こうした先生方の不安を払拭し、学校におけるICT活用をサポートしてくれるものと期待しています。

取材にご協力いただいた先生



上田市教育委員会
学校教育課
小池 心吾 指導主事



上田市立
丸子北小学校
武田 敦子 先生



上田市立
丸子北小学校
青島 勉 先生



CLIENT DATA

導入学校 / 上田市立丸子北小学校
所在地 / 長野県上田市
設立 / 1873年